

七月 月例集会

今ほど、加賀地区大会等の活躍に対する、表彰と披露を行いました。改めてその活躍と努力に対して、おめでとうの言葉を贈ります。

「悔いを残さぬよう、最後の最後まであきらめずに、精一杯頑張ってもらいたい。」

激励会において、みなさんにこう伝えました。

大会当日は各会場で、勝ち負けに関わらず、選手のプレー、応援が一体となった、寺中生のあきらめず頑張る姿を、しっかりと見ることができました。

『試合後のミーティングでは、一年生から三年生、そして先生たちと、全員が感想を述べた。『序盤の雰囲気は、いつもより良かった。』と述べる人や、「今までの中で一番楽しかった。』と述べる人たちがいたが、僕は正直に「悔しい。」という気持ちを述べた。

続けてきた部活動が終わってしまった。今は、その喪失感がとても大きい。しかし、終わってしまったことは、もう戻らない。未来を見て、これからは受験勉強に精を出し、県大会に出場する人たちを応援していきたいと思う。』

これは、ある中学三年生が書いた試合後の作文です。

「未来を見て」の一言からは、これまでの努力やそこ学んだ者でしか得られない、やり遂げた思いを感じます。

勝つことで得られるものもあれば、失ってほしくないものもある。負けることで失うものもあれば、失って気づき得られるものもある。

スピードスケートの小平奈緒選手は、五輪新記録での優勝という素晴らしい勝利でしたが、レース後、次のように話しています。「金メダルは名誉ですが、どういう人生を生きていくかが大事です。」

そこから、何を学び、どう生かすのか、自分の成長にどうつなげるのかを前向きに捉えることが大切であることを語っています。

試合を終え、悔しくも部を引退した人、これから県体を迎える人はもちろんですが、一学期の終盤を迎えるこの時、今一度、これまでの自分を振り返り、良い締めくくりと、次への成長へとつながる日々となることを期待し、七月月例集会の話とします。